

KES エコロジカルネットワーク

参加団体の皆様

各植物の晩秋～冬の管理について

KES エコロジカルネットワーク事務局

秋も深まり、紅葉の美しい季節となりました。いかがでしょうか。

春～秋の植物、フタバアオイ、フジバカマ、ヒオウギは花期も終わり、地上部の枯れが進んでいるかと思えます。

一方、晩秋の花、キクタニギクは、これからが花期の本番です。

この後の栽培管理や、冬越しの注意点などをお伝えします。

(栽培実習時に配布した資料と一部重複します。)

★緑化協会「花とみどりの相談所」もご利用ください(無料)。

水曜日と土曜日の午前10時～12時、午後1時～4時に電話で受けられる園芸相談も行っております。ぜひご利用ください。

【直通電話】075-561-1980

(面談の場合は、梅小路公園「緑の館」2階に直接お越しください。)

## ■フタバアオイ

晩秋から冬にかけては、地上部の葉がすっかり枯れ、地上部はわずかな茎だけになります。しかし、地中の根は生きています。また、11～12月ころ、来年に備え、新芽が膨らんできます。

鉢は、明るい場所に置きます。屋内では、暖房があまり効かない場所の方が良いでしょう。

土を乾燥させすぎないように、3～5日程度に1度は水やりをしましょう。

### 【株分け】

翌春の3月、まださほど暖かくなならないうちでしたら、株分けもできます。細い根を切らないように、ていねいに掘り出し、新芽を含む太い根の節ごと(7～8センチ程度)に切り分け、土に挿して植え付けます。(鉢は、浅い鉢が良い。)

## ■フジバカマ

葉がかなり枯れ上っているようであれば、地上部から10cmくらいで、茎を刈り込んでください。種子ができている場合は、他の近縁種と交雑している可能性もありますので、周囲に散らばらないように、茎ごと確実に捨ててください。

若い葉ほど香りはありませんが、残った葉や茎も、芳香剤や消臭剤として使えます。

鉢への水やりは、乾燥させすぎないように、数日に1度は行いましょう。日中の比較的

温かい時間帯に水をやってください。

この時期に地面に定植してもけっこうです。地植えの場合は、よほど乾燥しない限り、水やりは気にする必要はありません。

早春になったら、少しずつ水やりの頻度を多くしてください。いまある茎の脇から、新芽が出てきます。

#### 【寒さ対策】

真冬は、しも（降霜）や、凍結に注意する必要があります。フジバカマは寒さに比較的弱く、京都の冬の寒さでは、全ての株が冬越しできるとは限りません。

鉢植えの場合は、軒下に置いて霜を避けてください。

また、鉢植えでも、地植えでも、根元に土や落葉堆肥を数センチ盛ったり、わら、古ゴザ、寒冷紗を掛けるなどして根を寒さから保護すると、冬越しの可能性が高まります。

古ゴザで覆う場合は、雨水が届かないので、水やりを忘れないようにしてください。

### ■ヒオウギ

ヒオウギは、冬にかけて、地上部が枯れていきます。乾燥にも寒さにも強く、あまり手はかかりません。真冬は、数日に1度、水をやってください。寒さ対策は特に必要ありません。

#### 【種子まき】

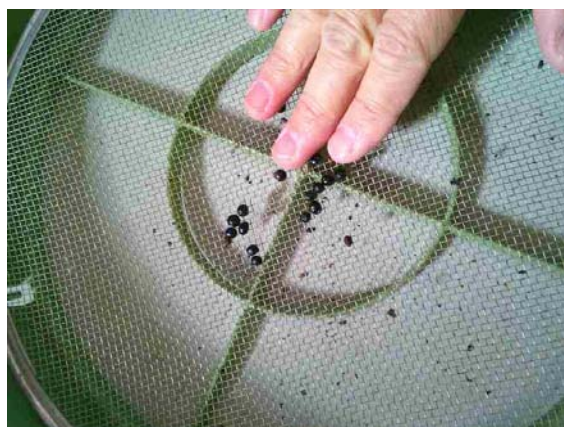
ヒオウギの古代での表記は「ぬばたま（射干玉）」「うばたま（烏羽玉）」ですが、これは、直接には、漆黒の玉のような種子のことを指し、夜の闇の深さや女性の髪などに係る枕詞として使われています。

また、お茶菓子で、黒光りするあんこ玉のモチーフになりました。

種子は、この時期にまいておくと、来年の春先に発芽します。

ただし、表皮が硬く発芽しにくいいため、写真のように、ザルなどにこすりつけて、皮を向くか、やすりなどで一部の皮を削り取ると、発芽しやすくなります（発芽処理）。

ヒオウギは、春先に種子をまくよりは、11～12月に採取して、間をあまり空けずにまくこと（採りまき）をお勧めします。



## ■キクタニギク

キクタニギクは、これから開花のピークを迎えます。小さな花が、次々と咲き出しているかと思えます。

ほかの花の少ない時期に、長ければ1か月間次々と花を咲かせます。ぜひ、朝方や夕方に花に日が当たる様子を見てください。金色に輝くようにも見え、「アワコガネギク」の別名があります。

水やりは、2～3日に1度くらい、表面が乾いてからやるようにしてください。

### 【花の処理】

キクタニギクは、全体として花期が長く、早く咲いた花は、種子をつけていきます。古びた花は、見た目により良くありませんし、近縁種と交雑した可能性がある種子が散乱しないように、花茎ごと切って、処分してください。

終わった花を少しずつ切っていけば、全体が長持ちします。

### 【花後の管理】

12月に入ると地上部は枯れ上りますので、地上部数センチで刈り取ります。

寒さ・霜には比較的強く、鉢植えのまま屋外で冬越ししても大半は冬越しします。できれば、根のまわりに増し土したり、わらを掛けるなどすると、さらに冬越ししやすくなります。

冬季は、水やりを控えます。数日に1度、乾燥させすぎない程度に、日中の比較的温かい時間帯に水をやってください。早春になったら、少しずつ水やりの頻度を多くしてください。

春に植え替えを行うと元気になります。植え替える場合は、3月中旬に株の古土や枯れた部分を取りのぞいて、新しい土に植えます。

4月に入ると、前年の株の脇から、新芽が出てきます。

(文責) 公益財団法人 京都市都市緑化協会

企画総務課 佐藤正吾

〒605-0071 東山区円山町 463

電話 075-561-1350 FAX 075-561-1675

協会 HP <http://www.kyoto-ga.jp/>